



【編集】  
富山国際大学  
現代社会学部

富山国際大学

東黒牧ニュース

Toyama University of International Studies



## キャンパスの自然に感性を磨かれて

書道で毎日賞を受賞した川口志穂さん 3年生（経営情報専攻）

書道展の最高峰の一つ、毎日書道展で、新鋭作家の登竜門となる23歳以下部門の最高賞、「U23毎日賞」を今年7月、受賞した。吉報を聞いたのは、携帯会社の宣伝のために着ていた着ぐるみの中。書道で使う紙や墨などの費用を稼ぐためのバイトの真っ最中のことだった。汗まみれの身で喜びに浸った。それからは、東京での表彰式という華々しい舞台を経験し、作品は、全国10会場で順次、展示された。



富山国際大学に入ってから、毎日書道展と並んで四大書道展の一つとされる創玄展の二科で、二科賞と準二科賞を既に受賞している。昨年には「川口花穂」という雅号を与えられたりっぱな書家である。

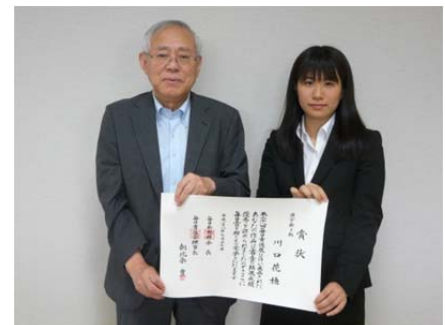


書道を本格的に始めたのは、高校での部活からだったというから一気に才能が開いたといえるのだろう。

実家は射水市にあり、現在、東黒牧のキャンパスのすぐ近くに一人で住む。週末には書の師に指導を仰ぎ、実家に泊まる。ウィークデイは、授業に加え、書道教室での指導、障害者向けの塾講師や母の出身地である八尾の、おわらの踊り手、などと極めて忙しい。その中で静かに書と向かう時間を作りだしている。

一〇〇枚以上書いて、ようやく、書道展に出すような作品が出来上がるという。それを支えるのが、東黒牧キャンパスの恵まれた自然環境だ。行き詰った時など、何も持たずにキャンパスとその周囲を歩いてみる。気持ちが変わる。そして、「柔らかくて暖かさと厳しさを併せ持つ書」を心掛ける中、豊かな自然が、そうした書を生み出す「感性を育ててくれる」。

とりあえずの目標は、創玄展の一科でも賞を取り、「毎日賞が、まぐれではないことを証明する」こと。そして、「書プラスαで食べていけるようになること」だ。卒業までその目標が叶うのか、川口さんの忙しい日々は続く。



▽この欄では、各方面で活躍する現代社会学部の学生を順次、取り上げていきます。